

## 平成29年度 第2回 西伊豆町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成30年1月17日（水）午後2時30分から午後4時30分まで
- 2 開催の場所 福祉センター 大会議室
- 3 出席者 町 長 星 野 淨 晋  
教 育 長 清 野 裕 章  
教 育 委 員 山 本 久美子  
教 育 委 員 鈴 木 秀 輝  
教 育 委 員 渡 邊 美 成  
教 育 委 員 藤 井 繭 子
- 4 事務局 事 務 局 長 高 木 光 一  
学 校 教 育 係 長 山 本 諭  
社 会 教 育 係 長 萩 本 泰 宏
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
  - (1) 平成30年度西伊豆町教育行政の基本方針案について
  - (2) 教育委員会事務事業全般について
  - (3) その他

局 長 定刻前ですが、皆さんお揃いになられましたので、ただいまから平成29年度第2回西伊豆町総合教育会議を開会いたします。本日の司会は私、高木が務めさせていただきます。宜しくお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、町長からご挨拶申し上げます。

町 長 みなさんこんにちは。今日は第2回の西伊豆町総合教育会議に出席していただきまして、誠にありがとうございます。今、町のほうでは平成30年度予算を組んでいる最中でありまして、教育費といたしましては、松崎や下田の高校へ行く学生の通学費の助成を来年度からやってみようかというものと、学力の高い方で、町内の中学校を卒業し松崎高校へ進学する方につきましては、給付型の奨学金もやってみよ

うかというように思っております。これは皆さんもご存知のように、今、松崎高校は3クラスありますが、西伊豆町と松崎町の出生数を考えますと、10年後、20年後になると無くなってしまう可能性もありますので、町としても松崎高校の存続に向けて、また優秀な方になるべく地元に残っていただいて、その後の大学へ進学することは個人の自由でございますが、大学を卒業して就職の時に戻ってこられるような地域愛というものを学んでいただきたいというような趣旨も含まれて、そういったこともおこなっていきたいと思っております。

また、広い意味でこの総合教育会議で皆さんの意見を聞いて、色々な施策につなげていければと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂ければと思っております。よろしく申し上げます。

**町当局**     ありがとうございました。引き続き、議事に入ります。議事の進行は、座長であります町長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

**町 長**     それでは、次第に基づきまして、本日の議事を進行させていただきます。

本日の議題は、「平成30年度西伊豆町教育行政の基本方針案について」と「教育委員会事務事業全般について」でございます。まずは、(1)の「平成30年度西伊豆町教育行政の基本方針案について」協議をしたいと思います。教育委員会事務局から資料の説明をお願いします。

**教育長**     それでは私のほうから説明させていただきます。皆さんのお手元に配られている資料に基づいて説明をさせていただきます。西伊豆町教育大綱、それから平成30年度西伊豆町教育行政の基本方針(案)、平成30年度西伊豆町教育環境整備(案)というものをを用いて説明させていただきます。

なお、この教育行政の基本方針は教育委員の議決事項でありますので、この場で町長とともに教育委員の皆様にご確認をさせていただきまして、次回の定例会で議決をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。初めにお手元の資料の表紙をご覧くださいと思います。ここにあるとおり「西伊豆町教育大綱」。この綴り全部で4ページございます。平成27年11月に策定されたものでして、2015年から2018年の約3年間を見越して策定されたもので

す。来年度がその3年目に当たります。

この教育大綱につきましては、教育行政の基本方針、教育環境整備、西伊豆町一貫教育研究会、それから各学校の経営目標等にも波及するものでありまして、あらゆる教育行政や教育現場の指針となるものです。ですので、こちらを頻繁に変えていくのでは混乱を招くばかりですので、基本的にこちらを踏襲して来年度も考えていくというように私は考えております。ご存じのとおりこの大綱については、私の前任の宮崎教育長の時代に策定されたものでありますけれども、私自身の解釈を踏まえて皆様とともに確認していきたいと思っております。

それでは1ページめくっていただきます。「夢をはぐくみ、ふるさとを語れる人づくり」と入っております。この言葉がどこから由来するのかと言いますと、その下に「西伊豆町民憲章」というのがありますので、そこから導き出された基本理念と考えられます。基本目標はそこにあるとおり「教育の充実、西伊豆で育ち・育てる」というような目標を掲げております。

その下の図になりますが、これを図で示すとこういうことになるのではないかと示されているものだと考えられます。左上に改革・革新・イノベーションとあり、今の変化の著しい時代に経験主義に基づく教育がおこなわれているのであるのは、時代にマッチしないので、時代にマッチした、むしろ時代を先取りした教育がおこなわれれば理想ではないかと考えております。地域の特色・ローカル、国際教育・交流・グローバルというように示されております。細かいことですが、国際教育はグローバルではなく、インターナショナルではないかと考えられますが、そこから目指すのがグローバルではないかと解釈できます。具体的に何を意味するかというのは、その四角の中で囲った3項目ないし5項目に示されております。

それから3ページを開いていただきたいと思っております。これは先ほどの図にあったことについて取り上げた大きな柱2点です。1つは教育の充実を図るため教育行政の改革、革新をおこないます。大きな柱の2としては地域の特色を生かしつつ、国際教育との融合を図ります。そのような視点で大きな柱を2つ掲げております。その下のことについては割愛させていただき、下の表へ参りますと、中柱1、学校、家庭教育の連携推進。特色ある学校づくりの推進。学校支援ボランティアの充実。これは本年度賀茂小学校でプログラミング教育というものがおこなわれておりますが、これも学校支援ボランティアによって実現したものです。そのほか各学校で放課後の学習支援がおこなわれて

おります。それから家庭地域活動の充実。ここに掲げておりますが、学校教育というものが肥大化しております。よその地域では教育委員会の機能というのも学校教育へとシフトしており、教育委員会は学校教育委員会ではないかという批判も生まれているとも聞きます。それから子育て支援ネットワークの充実。この点、西伊豆町は先進的な地域ではないかと見ております。医療費、給食費、保育料、先ほど町長からお話のあった高校の通学費の補助等、大変進んだ地域ではないかと見ております。中柱の2、幼保、小中学校、高校の連携推進。幼保と小中学校は西伊豆町教育委員会の管轄内にありますので、それに県立の松崎高校を加えて、幼保から高校までの連携を目指しております。これは松崎高校の存続につながるものであると皆さんご承知のとおりであります。それから教職員の研修、交流活動の促進。松崎高校で明後日になりますが西豆学の発表会が開かれます。特に中高連携した活動になっております。少子化に対応したよりよい環境づくりに向けて、園・学校の統合を検討。当初の計画が行き詰まりましたので、ここで再スタートを図ろうというのが現在です。中柱の3、地域の自然、伝統、文化を生かし、国際化に対応できる力を育む教育の推進。ふるさとを語れる子どもの育成。これは1つの大きな目標でもあります。自然体験、社会体験活動の充実。英語教育、国際交流の推進。西伊豆町は現在ALTが3名と大変恵まれております。それも国の事業で町の予算を必要としないところで進めているわけですが、環境としては恵まれておりますが、それが恵まれ過ぎていると英語の授業などでもALTに頼ってしまいがちになってしまいます。ALTはあくまでもアシスタントであるべき立場ですけれども、主となって授業をおこなって、教員の指導力が身につかなくなるということもありますので、そのところは上手にこちらで誘導していかなければならないと考えております。

次の4ページ目。重点施策になりますが、こちらにつきましては見ただけであればと思います。

以上が西伊豆町教育大綱についての内容になります。

続きまして西伊豆町教育行政の基本方針になります。これは平成30年度の案につきまして、平成29年度のものを消したり加えたりさせていただいておりますので、どこが変わったのか見え消しで示しております。平成29年度の中で、中央より上のところにあります、

「西伊豆町はより顕著な傾向」にあるという1行を削りました。何が顕著な傾向なのかというところについては、そのすぐ上の4行に記載

しております。なぜ消すかについては、一番下の枠の中に新たにもう1行加えたいので、西伊豆町がより顕著な傾向にあるということほどなたも知っていることだと思っておりますので、そこを消して下の四角の中に1行加えます。特に一番上の四角、真ん中の四角については変更ありません。国の教育振興基本計画というのも変わりありませんし、西伊豆町教育大綱も3年間は変わりありません。そこから平成30年度の重点目標が生まれます。一番下の枠のすぐ横に「大綱を踏まえ、西伊豆町一貫教育研究会基本方針を見直し」とありますが、これはすでに本年度おこなっていることですので、ここから除外しました。

そして、平成29年度全部で7項目ありましたが、そのうちの5番になります。これは平成29年度の中には4番が1行目と2行目がつながっておりました。「国際教育の充実と国際交流」の理由づけとして、「小学校外国語教育の早期化への対応」というのがありましたが、平成30年度の重点目標については、小学校外国語教育は新たに項目を起こしまして5番としました。5、6、7番については、順次、項の番号を替えました。そして9番の上にあります。先ほど町長からお話がありました、高校生給付型奨学金と高校生通学費助成を追加したいと考えております。これから議会のほうで承認を頂くわけですが、承認を頂けるものと見込の中で9番を新たに加えたいというのが平成30年度の重点目標になります。

その次、6ページになります。こちら平成29年度版を書き直して平成30年度版を作成しております。1番、「指導主事配置による授業力向上」というところは余計な説明を省いて1行で平成30年度版を作成しております。2番の「特色ある学校作りの推進」の中で主なメニューについてはICT環境の整備。括弧の中のものはずで完了しておりますので、その部分を削除しました。そして大きな黒点がありますがそれを残して、②の国語教育の充実とありますが、そこに事業評価と平成30年度は入れさせていただきました。国語教育の充実として内容的には、民間連携での学力向上、国語力検定、テキスト教材、通信添削により小学生の国語基礎力の向上を図るということになります。主にZ会との連携でおこなっている事業になりますが、これが実効性はあるのか、効力は上がっているのかという疑問が教育現場を含めてありますので、その部分について事業評価をおこなうものです。小学校の校長先生の中にはもうやめるのかというお話もありますけれども、あくまでも事業評価になりますので、その評価の結果によって続ける場合もあればやめる場合もあります。または違った形

でZ会に話をさせていただいて、新しい教材を提供していただくという方法もあります。そして③、「各種テスト、調査の実施」NRT、Q-U検査などが当たります。「社会人活用による学習支援、音楽鑑賞会、放課後学習、職員研修」の中で新規の事業として、Z会とレゴ社によるプログラミング教育というものがありまして、これは先進的な実験として賀茂小学校へ本年度おこなわれました。この1年限りの発表になりますので、来年度については仁科小学校で、Z会の手を離れて教育委員会事業としておこなう予定であります。田子小学校からも手が上がりましたけれども、ただいっぺんに両方おこなうのは困難なところがありますので、まずは仁科小学校と考えております。⑤の「緊急連絡システムによる子どもたちの安全確保」のところで、そこに1行入っておりますが、そのところは消しました。これはやめるという意味ではなく、システムが町全体のシステムに移行するかどうか検討中となっておりますので、この緊急連絡システムについては引き続きおこないます。

それから3番、「外国青年招致事業JETプログラム活用の国際化の推進」「幼保、小、中学校への外国人講師派遣による英語力の向上、スポーツ競技力向上」が29年度は入ってございましたけれども、スポーツ競技力につきましては除外しました。そしてJETプログラムの中のSEA、スポーツ国際交流員1名が平成29年度は含まれてございましたけれども、平成30年度におきましては、考えておりません。これは1名来ていただいたわけですがけれども、中学校の部活では十分に引き出せないところがありました。この時期の部活動は日が暮れるのが早いので1日30分おこなわれているかどうかという現状がありまして、そのような中で元プロとして活躍した人の能力を生かすというのは困難でありました。そのSEA自身も感じたことがありまして、年度途中で契約を打ち切っております。

次の「平成28年度静岡大学共同研究に基づく幼保・小学校での英語活動」その下に新規の「小学校英語関連教材整備」ということになりますけれども、これは平成30年度も実施してまいります。ただ静岡大学との共同研究につきましては、あまりに理想を追いすぎてかなり難しいところが分かったと静岡大学の先生自身もお話されておりました。もっと現実に見合った形で進めてまいりたいと考えております。その2つの赤点については平成30年で1本にまとめました。

それから平成29年度の新規事業として「町内留学」旧田子中学校、やまびこ荘など澎湖県来日時合宿に使えるのではないかと

ことで、澎湖県につきましては、今年度私は関わることができなかつたわけですが、だいぶ向こうで考えていることと、こちらで考えたことでは開きがあるかと思いますので、そのところは削っておきました。それから6ページの下から2行目についてはC I Rが、一番下についてはA L Tが担当しておりました。C I Rにつきましては、勤務はこれまでとなりまして、来月新しいC I Rを派遣していただくことになりました。それからA L Tにつきましても、今年の7月までの契約となりまして、それ以降は新しいA L Tを派遣していただくこととなります。また新しいA L T、C I Rが赴任したならば、その特徴を生かせる事業を組めればと考えております。

以上が平成30年度西伊豆町教育行政の教育方針案についてです。8ページの表題の「平成30年度西伊豆町の教育環境整備」と書かれていた右側へと（案）と入れていただけますでしょうか。これにつきましても次回の教育委員会で議決をしたいと考えております。

**町 長** では、「平成30年度西伊豆町教育行政の基本方針案について」の資料説明が一とおり終わりましたので、私のほうから来年度の教育行政に対する考え方を少し話させていただきます。

先ほど挨拶の時に申し上げましたけれども、高校の通学費の助成、松崎高校に行かれる方の給付型の奨学金を創設したいということで予算を取っております。その他にも町の総合的な教育を考えた場合、先ほど教育長の説明でもありましたが、Z会がおこなっているレゴ社のプログラミング教室が昨年賀茂小でやりまして、今年は仁科小、田子小も手を挙げたけれどもできないということもありまして、現状を考えた場合、子供の数がここまで減っているのに3校に分解しているので、出来る学校出来ない学校が出てきます。私がまだ小学生、中学生の時に3校を1校にするということであれば、人数が多すぎて不可能ではないかという議論もあるかと思いますが、今考えますと、1学年、多くても60人という学年しかありませんので、できれば1つにして、町内の子どもは同じ教育を受けさせてあげたい、または受ける機会を与えてあげたいと思っております。また、このレゴの教育も全ての子どもに強制的にやらせているわけではなく、賀茂小の時も5、6年生の中でZ会がおこなっているレゴのプログラミングがありますが、やりたい方はということで募ってやっておりましたので、逆に田子小や仁科小がやりたくても出来ない環境があります。

ですので、できれば1カ所に集めてみんなで情報の共有や機会の均

等をしたいということで、文教施設の委員会に色々なご意見を頂きたいということで投げかけておりますけれども、皆さんご存知のとおり旧洋ラン跡地の地質調査をした中間報告では、あそこに上物を建てられる状況ではないということで、町も多少困惑しているところがあります。ただ、何もしないわけでは無く、小学校、中学校については既存の学校をいかに活用して統合できる案は無いのかということを探しているところでもありますし、幼・保・認定こども園につきましても、3カ所ありますので出来れば高台が望ましいのですけれども、現状の海拔3m付近のところよりかは海拔10m前後のところに来ないかということ、事務局のほうでは一生懸命考えております。ただ場所については、文教施設等整備委員会のほうに図って、色々なご意見を頂かないといけないとは思いますが、先ほど申し上げましたとおり、平成29年度産まれてくる子供の人数が20人いきません。そしてこの人数が3、4年同じ状況でございまして、親になる世代の若者が少ないことを考えますと、来年いきなり40人ということはありませんので、できれば1つの園で活動してもらいたい。今の賀茂幼稚園の年少が1学年3名しかいないという状況でございまして、やはり小さい頃には多くの友達がいって、にこやかに生活するのも1つの幼児教育なのかとも思っておりますので、色々な面で教育委員の皆さんには負担をかけることもあるかと思いますが、町としてはそういうことに重点を置いて取り組んでいきたいと思っております。

ただ、統合すれば全てが解決するというものではありません。また、国のほうでは国際化に向けてすごいスピードで舵を切っております。小学校でも英語教育をやるであるとか色々なこともありますので、先ほど教育長言われましたように、JETプログラムをうまく活用してCIRやALTの皆さんに来ていただきながら、小さい頃から英語に親しんで、教育をされているという感覚が無いまでの日常会話が片言で話せたり、聞いていてニュアンスで理解できたりする土台を小学生までの間に作れば、中学生になって英語という教科になったときには、親しみやすいのではないかと思っております。

ある意味子どもの人数が減ると、デメリット的なことが多く浮かびますけれども、違う視点を考えてみれば、20人の子どもに1人の外国人講師が教えてくれているということを考えると、とても都会ではありえない教育環境が提供できるというメリットがありますので、うまくそこを利用しながらそういう教育を求めている人が来なくなるまちづくりも必要かとも思っております。ですので、外で産んで、育て



るときには西伊豆に来てもらうことも1つの手だとは思いますが。そういったことも踏まえてこれから取り組んでいきたいと思っておりますし、さきほど静岡大学のお話もあり、立教大学ともESDの研究ということで色々関わりをさせていただいております。知事からもう1つお話を頂いております、明治大学からも西伊豆に来てはどうかというお話が出ているというみたいですので、そういった大学と上手に連携をしながら過疎の西伊豆に住んでも教育は都市部とは変わらないということも提供できればと思っておりますので、逆にこういう小さい町だからこういうことをやったらどうかというご意見がありましたら、教育委員の皆様からもご意見をお伺いできればと思っておりますので、よろしくお願いします。

その中身につきまして、基本方針に入れていただくようなこともあるかもしれません。意見交換ということですので、何かありますでしょうか。

**町当局** 事務局から1点相談ですが、30年度の西伊豆町の教育行政の基本方針案の30年度の9番につきまして、こちら貸与と給付とあります。先ほど町長がおっしゃったように制度の創設ということで、高校生給付型奨学金と高校生通学費等となっておりますが、高校生通学費等の等は当初下宿も想定しておりましたので、入っていたのですが、今回対象外としたことから、高校生通学費助成制度の創設のほうが良いかと思うのですが、如何でしょうか。

**町長** そうなると奨学金の貸与はしているということか。創設ということならば貸与は消さなければ。

**町当局** 高校生給付型奨学金と高校生通学費助成制度の創設のほうが分かりやすいかと思われま。

**町長** そうすると貸与が無くなるとなれば、大学生の分を。

**町当局** そうです。入れるとなれば大学生の貸与が新しく入ってくるかと思えます。

町長 では、それはまた入れていただくということでよろしいかと思えます。今出ておりました奨学金というものは、百川奨学金というものと稲葉金秋奨学金というものを町でおこなっております、こちらは今まで高校生までが対象で貸与しておりました。

昔は借りた方がいらっしゃったのですが、ここ10年くらいはいらっしゃらないということで、せつかくそういう基金を寄付していただいて創設されておりますので、広く使っていただいた方がいいのかというところで、大学生まで広くして、額も2万円まであげたらどうだという案がありますので、こちらは当然議会上程をするというのも事務局のほうも考えております。

委員 大学生というのはどのような判断でおこなうのでしょうか。町内の高校からだとか、よそからこちらに住んでもいいのか。

町長 貸与ですので、最終的には返ってきますから、町内に親御さんが住んでいるとか、大学へ行く時に住所を変えることもありますので、西伊豆町に縁のある方を対象に。給付型ならば完全に町内に親が住んでなければいけないということになります。貸与ですので卒業したらご返済をしていただくということになりますので、その辺りは若干ゆるくなります。

委員 他の奨学金を受けていても大丈夫ですか。

町長 返済していただければ。日本育英会などからも奨学金を貰っている方も同然いると思いますが、家の事情によってそれだけではという方もいるかもしれません。今は大学を卒業しないと就職にということで行かれる方もいらっしゃるので、そのまま広げておいたほうが良いかと思われま。

委員 プログラミング学習を昨年は賀茂で今年は仁科。この流れで行くとその次は田子小というように流れているかと思うが、それでは子どもにとってはチャンスが来ない子どもが出る。どちらかというに興味がある子がやれば力をつけていき、興味のない子は遊びで終わってしまう。

ならば学校ごとでやるよりかは希望がある子どもたちを集めて、放課後や土日を使ってレベルアップできるようにしたほうが良い。機会

が与えられない子が出てくると思う。集めてやるやり方は出来ないのか。

委員 都会ではプログラミングをおこなって、そこから波及していき、すごい物が出来ていると聞きました。ですから、せっかくそこで1年やってやる気になってきた子が、その1年で終わりというのは可哀そう。

委員 中学では情報の授業があるが、授業数は実質少ない。こういうのを発展させるのは難しい所もあると思うが、うまくできれば中学に上がった子がもっと深くまでやりたいと思うようになる。

委員 都会はそういうクラブが沢山ある。なので、そこで差が出てきてしまいます。益々こういうものは必要になってくる。

町長 やるとすれば夏休みに、児童クラブでやってもらうとすれば学校限らず出来るかと。この前に子ども子育て会議の時に出了た意見が、児童クラブは仁科小しかないので、田子、安良里、宇久須の人たちは通えない、もし通ったとしてもバス代がという話をされていたので、検討しますとその時には回答したのですが、昨日、公共交通会議がありまして、松崎にいる支社長がおりましたので、会議に出席していただきまして、児童クラブに来る子供たちは町が費用を持ちますので、片道一律100円で乗せてくれませんかとお願いをしております。そうすれば児童クラブに払うお金は仁科も宇久須も一緒になり、来所するための料金は町が払う、町が払うけれども本当は往復600円なのですが、500円は東海バスが泣いてもらい、町が100円で話はつきませんかというお願いをしておりますので、もしそういうことが出来れば宇久須、安良里、田子の子でも夏休みに児童クラブに行き、プログラミングが出来るということになれば、5年生でやって6年生でもう一回やってレベルアップしたものも可能かもしれませんので、そういう考え方も出来るかもしれません。

今回の予算に限っては、仁科小学校から要求が来ているということで、あれは物があればいいということではなく、メンターという一般の方が教えておりまして、その人の都合もありますので、学校の放課後の学習の中では出来ないかもしれませんが、放課後児童クラブの中で出来るのであれば、取り入れられるかと思ひます。

先ほど委員が言われたとおり、賀茂小で今年4年生の子は、来年は5年。再来年は6年生と、仁科から田子というように回ってしまうと4年生は1回も出来ないで卒業になってしまいます。そういうことも含めると統合は必要だろうと感じますし、逆にそういう子も児童クラブに行けば出来るのだったら、チャンスは生まれてくると思います。その辺りは事務局で案を煮詰めてもらい、可能であればそういうことも考えて頂ければ、バス料金については話をまたしてきます。

他にありますか、言っていただければ、出来るものはなるべく皆さんから頂いたものをミックスしていいものが生まれてくるかもしれません。

**委員** 国語教育の充実の事業評価がいつも気になるのですが、仁科でやっていたZ会などですが、やってどうかとなったときに、課題などをこの事業評価というところを新たに入れたのだと思うのですが、事業評価が明確にあると評価が分かりやすくて、今後にも生かされていくかと思えます。Z会は難しいのではないかというお話を聞くのですが、今後の課題がZ会を利用していくのかというところが明確になってくると良いかと感じております。

**町長** 今は事業評価がどのようになっているかはわかりませんが、今回予算を各学校に要求してもらうときには、仮に他の学校でやっている良いものがあれば、うちもやりたいということで手を挙げても構いませんということでお願いをしました。賀茂小だけが天神という算数の計算ソフトを入れているので、もしそれを良いと思うのであれば他の学校でもどうぞという話をしたのですが、上がってきていないので、それは学校担任のほうがどういう評価をしているのか分かりませんが、一応町としてはそういったものでいいものがあれば取り入れて下さいというお願いはしますので、委員が言われたとおり事業評価が出来れば他の学校でやっていて、良い評価が出ているからやろうということも出ると思います。それも踏まえて30年度の教育環境整備案の中に追加するという風になっておりますので、これは教育委員会のほうにお願いしたいと思えます。

**教育長** Z会を学校教育の中でおこなうというのはいいと信じて始めたわけですが、しかし5年生になってからわずか3ヶ月というような中でお金を払って実施して、果たして効果があるのかどうかということ考

えた時には、Z会というのは大学受験をメインに考えてきたところ  
ありますので、実際子どもたちがやることについては2通りある内の  
比較的取りつきやすいレベルでやっているのですが、それでも厳しい  
のではないかという話も出ております。やった場合もやらない場合の  
効果が比較できればいいのですが、その比較というのも1つのクラス  
を2つに割ってという比較はできませんので、評価を出すのは難しい  
部分はありますが、今後続けていくにしてもやめるにしても必要にな  
ってくるかと思えます。

町長 聞く話によると、読解力はやらない時よりはやった時のほうが上  
がったと聞いておりますので、今まで西伊豆の子は文章問題が苦手だ  
ったと聞いておりましたので、少しでも効果が出ればいいかと思いま  
す。

委員 SEAというのはこの町にはそぐわないということになったのでし  
ょうか。これから先派遣されることはないのでしょうか。

教育長 SEAについては、派遣することはないかと思えます。

委員 小学校でも来られても困っていた。どう授業で使っていいか分か  
らなかった。しいて言えば昼休みに子どもたちと遊んでもらうくらい。

町長 一番微妙なところが、ALTとSEAは日本語が喋れません。CIR  
は日本語が喋れることが条件ですので、必ず母国語と日本語と母国  
語が英語でなければ、英語ということになります。今度来る人がシン  
ガポールの人で、シンガポールがどういう言葉を喋っているか分か  
りませんが、その言葉と日本語と英語なので、そういう方であれば私  
たちと会話していても話にはなるのですが、ALTの一人は日本語がな  
んともわかりませんが、あとの二人はあまり日本語が通じないので、  
彼女たちはあくまでもALTなので、英語の補助員なのでいいのです  
が、SEAがバスケの練習を教えたとしても意思の疎通が出来ないので、  
SEAが何を言っているのかという面でも宝の持ち腐れなところ  
もありました。1番いいのはCIRでスポーツのできる方です。その  
点いまのCIRはボディビルをやっておりましたので、フィットネス  
なども。

委員 SEAとセットでスポーツ競技力のところに棒線が引かれているのですが、スポーツ競技力は競技力で日本人ならば何であろうが、それはそれで大事なことだと思います。

町長 ただこれは黒丸が国際教育の充実なので、一応そういうことで来年はもしかしたらALTは2名にして、CIRを2名にして、できれば中国語が出来る方に来ていただいたほうが良いのかと。旅館にも言えることなのですが、いくら英語と言っても、来る方の外国人は6割近くは中華圏で、英語を喋る方というのは2割あるかないくらいしかないのです、町内でということになりますと難しい。逆に中国語が喋れば学校教育が休みの時は、観光関係者のところに行ってもらうことも可能になりますので、あくまでもこの方たちは教育だけではないので、CIRは使い勝手がいいといっちは変ですが、そういうことでも有効活用できればと思っております。

委員 町の観光客で見ても中国人が多いのですか。

町長 多いです。中国人というよりも中華圏です。台湾を含めた。その次に来るのが韓国。最近勢いがあるのがベトナムと聞いております。ただベトナムと聞いて言葉が何になるか分からない。そういうところになると中国語よりかは共通語として英語が必要になるかと思えます。

委員 中国人のALTを置いている市町は多いのですか。

町長 ただ中国はとおりません。中国が出さないのではなかなか難しいみたいです。

町当局 今度来る方は中国語が出来ます。

委員 ALTについて、一人は7月までということは聞いていますが、他の二人も7月までですか。

町当局 7月の24、5日までと、二人は8月2日で来日した時の日になります。

委員 その後SEAという形で国からの補助で続けられるということですか。

か。

町 長　いまのC I Rの代わりの方が2月から来ます。2月から7月、8月の期間はその4人で回して、C I Rがある程度西伊豆町のことが分かったところにA L Tの今の3人が抜けた代わりに3人入れるか、A L T 2人とC I R 1人を入れて全体の4人は変わらずに回していきたいというところです。ただあくまでも1人につき3年の延長で、それ以降も雇いたい場合は最長5年という国の縛りがあります。

委 員　国の補助は続きますか。

町 長　国の補助は来てもらっている間は続きます。ただ1年更新ですので、帰りたいと言った場合は手放さないといけない。本当はC I RもA L Tもずっといてもらえれば町としては相当助かります。

委 員　最長で5年なのですか。

町 長　5年です。

委 員　では彼女はもう5年なのですか。

町 長　今3年目です。彼女は優秀なのでもっといいところでもう一回学びたいということです。

委 員　もっといるような気がしました。

町 長　3人が一緒にこちらに来て、その次に元S E Aが来て、その後にC I Rが来ておりました。なので、いて欲しくてもいてもらえないところがあります。

委 員　C I Rは来てから1年経っていましたか。

町 長　来てから1年半は経っておりました。

委 員　みんなこの契約で帰ってしまうのは決まっているのですか。

町 長 まだわかりません。二人はほぼ事情により手放さざるを得ないです。彼女は田子の節分にも出ていただいでいて、彼女は和が好きで太鼓の練習や空手、柔道もやるみたいなので、そういうのを好きな人が沢山来てくれば、子供たちも外国人という偏見は無く付き合えるかと思います。

町当局 ちなみにALTの一人は帰国を希望しております。もう一人は出来れば残りたいと言っております。事務局といたしましても、業務の継続性を考えると一気に全員を変えたくはないと思っています。

委 員 よく言えば3年もよくいて下さったとも言えます。

町 長 彼女たちからすると異国の地に3年ですから、仕事とはいえ。他に何かございますでしょうか。

委 員 1ついいのでしょうか。台湾の澎湖県の来日時の合宿というところが消されるという案ですが、澎湖県との交流は続けていくのですか。

教育長 はい。そのとおりです。

委 員 この合宿というのは、何になるのでしょうか。

町当局 合宿というのは、ホームステイではなく修学旅行的に来て泊まるという形だったのですが、そこまでは出来ないというところでした。ですが、ホームステイは継続的に実施をしていきたいと考えております

町 長 台湾はなかなか日本と習慣が違うので、直前まで決まりません。私たちも直接話したくても言葉が通じないので、間にかませるとタイムラグが1時間ではなく1週間も掛かってしまいます。なので、逆にC I Rにやっていただいたほうがありがたいかと思っております。ですが、今年も夏に4人行って、冬にも向こうから来て、向こうでホームステイした子の家にホームステイというようにしたのですが、とても楽しんで帰ったのではないかと。

委 員 これは生徒会長が選ばれて行ったのですか。



町当局 学校に選考はお任せしております。

委員 希望者をですか。

町当局 希望がない場合には声かけをしておりますが、基本的には希望者です。

教育長 1つの学校で男子1名女子1名が理想なのですが、今年は賀茂中学校が男子3名募集してきておりまして、3名をどうやって選んだかについてはくじ引きで決定しました。行きたいという思いがあるならそれで十分良いです。

町長 逆に町としてはそういう行くチャンスがあるので、行く前にもう少し英語を勉強していただきたい気持ちはある。逆にそれが良い機会になって1年生2年生が澎湖県へ行けるのなら勉強しようかという気持ちになってくれればありがたいと思いますが。残念ながら今回行った子たちは英語が堪能ではなかった。

委員 町長も一緒に行ったのですか。

町長 行っては無いですが、冬に来た時の交流会で来た時などで。ただ向こうの県知事や年配の方は中国語しか喋れませんが、50代くらいからの幹部はみんな英語を喋ることが出来ます。なので、英語さえできれば向こうと意思の疎通はできます。

委員 高校生くらいになれば喋られる子はいます。中学3年生だと本当に少ない。

町当局 青少年の意見体験発表会の時に町内留学に参加された子が非常に英語に親しめた、勉強になったという意見がありましたので、ALTが変わるわけですが、継続して出来るようにと考えております。

委員 本当にこの町は色々なことが出来ます。羨ましいぐらいに色々なことがあるのに子どもたちは何も感じていないと思えるような感じがします。

委員 先ほど町長がおっしゃった立教大学の方が見えた時、ちょうど月見の会があったので、先生と生徒が10名くらい来ましたので、親しく喋らせていただいたのですが、彼らは西伊豆のことを知らないので、何かあれば町の方との交流があればいいなと感じました。

町長 まだESDは去年からなので、日は浅く接点はないと思いますが、IVUSAは去年が3年目で、今度の2月に田子中の体育館でヤーコンフェスをやります。今年からお祭りの前夜祭でバーベキューをやるので、住民の方に来ていただいて、80名くらい来ていただけたようです。今度は彼らに櫓漕ぎやカヌーのインストラクターをやらせて、子供との接点と地域の接点をうまく大学生と連携させたい。安良里に関しては静岡大学がハマボウの植栽に来てくれており、宇久須ではヤーコンの話でやっております。そのヤーコンがヤクルトか何かと契約出来るかもしれないという話も来ておりますので、うまくそれを繋げて、地元の方が頑張っって交わり、いきいきとする流れを作りたい。先ほど委員が言われたように、来ていることを知らない住民にもう少し積極的なPRは広報のほうに積極的にさせたいと思います。

町当局 教育委員会といたしましても、カヌーインストラクターの勉強をしていただいて、教えられる程度の技量は得ていただきました。来年度、出来ればカヌー教室の時に来ていただければと思っております。

委員 お祭りとかにも参加している人たちですか

町長 あれはまた別になります。逆に大学生の人たちと触れ合う機会があれば、大学生はこんな感じかなというイメージも出来ると思いますし、大学生の方も1回祭りなどで来て、社会人になってから旅行で来ようかというきっかけにもなるかと思えます。3年も来ていると顔の知っているほうが出来るらしく、すごい親しく喋ったとも聞きます。

それでは、議事(1)の「平成30年度西伊豆町教育行政の基本方針案について」は今皆さんからご意見伺いましたものを改めてこちらに反映させながら、教育長が言われましたように次回の教育委員会で決議をしていただく流れでよろしいでしょうか。それでは意見交換は以上とさせていただきます。

次に(2)の「教育委員会事務事業全般について」を議題といたします。特に資料は用意してございませんので、今までの教育行政、またこ

れからの教育行政の在り方など、教育全般について皆さんからご意見・要望等をお伺いし、意見交換をさせていただければと思います。

では、ご発言をお願いいたします

**委員** 教育委員会にということではないのですが、町長さんがいらっしゃるのので聞きます。西伊豆のホームページがひどいです。他所の良いところと比べると観光に関しても魅力がないし、教育委員会の行事などでも来月だけでなく再来月のスケジュールまで知りたいのですが、それがまったく出ておりません。

**町長** 私も議員の時に口をすっぱく言っていたのですが、情報カレンダーに載ってこないというのは分かっております。ホームページは来年リニューアルさせます。

**委員** 色々な取り組みをやっているのはホームページには載っていないのではないですか。

**町長** ついでなので情報提供として、今携帯電話を持たれていない方は少ないかと思いますが、来年から教育のところでありましたが、今学校は保護者に向けて緊急連絡網フェアキャストを送っていますが、それを今年で終わりにして町が行政の情報をメール発信できるようなシステムを組むので、それと同じようなもので教育委員会も情報提供できます。今までのフェアキャストですと1アドレスにつきいくら、1回通信するといくらとお金が発生しますが、新しいシステムはどれだけ発信しても金額は変わらないので、教育委員会の事業毎のデータなどを保護者へ飛ばせるようになりますので、一般と学校関係というようになるかと。逆に広報を見なくてもメールが来て蓄積されるので確認できるようになります。できれば4月1日から導入できればと考えており、教育委員会の関係の人は、フェアキャストから乗り換えのご案内が行くかと思いますが。新入生に限っては4月の入学で登録していただき、空白期間が空かないようにいたします。

ちなみに東京などに知り合いがいましたら、今年の3月プレオープン、4月オープンくらいで西伊豆町と丸亀市がコラボしたお店を東京駅に作ります。

**委員** かつおつながりで土佐と、田子弁と土佐弁は似ているところもある

そうなので。

委員 しおかつおのモニュメントをホテルなどに飾ってあるのは町の意向はあるのですか。

町長 あれは観光業者がすすんでやってくれております。

委員 宇久須のホテルにもレプリカが飾ってありました。

町長 もしかしたらしおかつお研究会が作って、置いてくれと頼んでいるかもしれません。

委員 西伊豆のポスターを東京で見たと連絡をくれるのですが、やはり都会に貼ってあると、地元出身者は嬉しいようで、黄金崎の馬ロックも今はそのような名前があると知らなく、地元の中もそうですけれども、外へも発信しているのは良いと思いました。

町長 まちづくり課も頑張っておまして、東京の高田のほうに3店舗提携してくれて、海賊焼きの乾麺を使って冷麺を出しているお店や、沢田出身の方が居酒屋の店長をやっているお店があったり、一色でダチョウを育てているかたの会社が茗荷谷というところで、西伊豆のサザエを使ってくれていたり、増えてきておりますので、地元出身者がお店を出していれば紹介していただけるとありがたいです。

委員 そういうのもホームページに出したらいいですね。

委員 ホームページも充実させようとするれば沢山情報はあるのですね。

町長 フェイスブックは地域おこし協力隊や西伊豆情報局が沢山出してくれております。明日からは横浜で釣り専門の方が集まるようなフェアに行きます。

町当局 松崎高校の状況ですが、3クラスでやっております。稲取高校も同じく3クラスでやっておりましたが、今回の入試から1クラス減になりました。下田高校が5クラスくらいあり、数が多い学校から学級減があるのかと関係者の間では見ていたのですが、突然稲取高校が減とな

りました。

松崎高校が3クラスですが、それだけの希望者が集まっていないという話が今年度ありました。私が見た時の資料では2クラス分にも満たないくらいでした。

委員 1クラス何人なのでしょう。

教育長 1クラス40人となります。

委員 受験希望者がいないということでしょうか。

教育長 はい。そうなります。

町長 そういう時代なのでしょう。如何に存続をさせるかということに頭を痛めており、県のほうもなんとかやってくれるような話はするのですが、来年か再来年には県立学校との連携をやって、学部を新たに作って大学と、という話はあるみたいです。なかなかその辺まで行きますと、県の仕事になりますので、話がうまくできないというもどかしさが。ただ松崎高校が無くなりましたら、若い人がいなくなります。下田に行くか土肥に行くかになり、松崎高校が無くなったら土肥へ行く人がほとんどだと思いますので、東海筋に行くとする引越をすると思います。それを考えると奨学金や交通費の助成をおこない、なにしろ松崎高校へ行ってもらうルートを作らなければ。

教育長 松崎なら下田に通えますけれども、西伊豆からとなると厳しいですね。

委員 田子からだ下田まで1回で行くことができません。一度乗り換えが必要です。堂ヶ島で乗り換えて、下田まで行きます。

委員 バスによっては松崎で乗り換えもありますね。

町長 まずはICTを充実させて、通信で高校へ行かせるかですね。交通費のことを考えれば、出来ないことではないと思います。

委員 松崎高校の特進クラスはとても評判はいいのですけれども。

町長　　そこで評判がよくなり松崎高校へ行きたいという人たちが移住をしてくればいいのですが。なので、松崎高校にも給付型の奨学金や助成もするので、高校は高校で頑張ってくださいという願いはしていきますので、いかに残ってもらえるかですね。そのためには下田や山を越す方にそこへ行ってとお願いをしてもらいたいですね。

教育長　　子ども側から何があったらいいのにとというのは聞きますか。

委員　　余り聞かないですね。3年間あまりいいことは言っていませんでした。前にも言いましたが、松崎高校の中でもすごく分裂しているみたいですね。特進クラスと一般のクラスでは二つの高校が中にあるくらいギャップがあるようです。その中でモチベーションを保つのが大変みたいで、こんなことやっているのは馬鹿らしく思えるくらいに程度が変わってきているようです。他から人を引っ張ってくるほどの魅力を松崎高校が持てるか考えどころですね。学生レベル、現在中3の生徒たちが松崎高校をどう見ているかと言ったら、たかが知れているわけですので。

町長　　それで思い出しましたが、昨年私は四国の美波町というところに視察に行きまして、そこでサテライトオフィスで働いている方が、Uターン組らしく、なぜ戻ってきたか聞いたところ、そういう新しい会社が出来たので、是非地元で働きたいということをおっしゃいました。前に何をやっていたか聞いたところ、大手の金融会社とのことで、そこを辞めてまでここに来たという話をしていて、それよりも地元だし魅力があって戻ってきたとも言っておりましたので、是非魅力があれば戻って来られるということ、こちらの高校へ来て話をしてくれないかというアプローチを掛けており、できれば今年度事業でやりたかったのですが、まだ日程が決まっていないということなので、今年が出来ないので来年度そういう方に来てもらい、田舎でも新しいITのものであれば、通信さえ繋がっていれば仕事はいくらでも成り立つので、逆に田舎のほうがいいという魅力をその人たちが言って、地元の高校生や中学生に都会じゃなく田舎も意外といいということを植え付けたいと思います。

委員　　どんな問題でも突き詰めると人口が少ないからに突き当たります。

町長　今は人口が少なくても、他のことを考えれば成り立つ状況を作れますので、人が少なければ子供にかかる費用が少なくても、すごくいいものが与えられます。逆に4,000人まで行くだらうと分かっているので、4,000人で計算しておいて、若い人は何人なのかパイを決めて、これ以上は受付けないというくらいの魅力を作ってしまう。何が生まれてくるか分からないものに投資をするということは、相当なギャンブルなのですけども、そこまでしなければいけないところまで来ているのかと。

委員　やはり行動がなければ。大いに失敗はするべきです。色々チャレンジして、何がこの町にフィットするのかというのが、時代も移り変わりますし、とにかく手を打っていかなければ。

委員　松崎高校のことですが、友達の子どもが松崎高校へ静大の推薦枠があるということで、今の子は中学という早い段階から意識しております。それを目指して特進クラスへ行って静大の推薦を貰うという子もいたりするそうです。

町長　でも都会はみんなそうみたいですね。

委員　私にはその感覚が無かったので、情報も子どもたちや保護者にも行くので、そこへ目指したいと合致すれば、そういう子も出てきて、そういう魅力が生まれるのだと思いました。

町長　逆にそういうものがあると子どもはモチベーションが上がります。

委員　なので、松崎高校へ入ればこの道があるというのはとても大きい魅力だと思います。

町長　本当に出来れば全部を統合して1つにして、思い切った森の幼稚園というような形にして野放しにすることで情操教育として良いというような話もありまして、3つの園でどこかに行くというのは難しいですが、1カ所の園ならある程度は。今度は保育士が1園になれば余りますので、それを早受入と遅番でうまく対応して開放しなくてもうまくできれば。

委員 先ほどおっしゃっておいりました園は10mでもとっておりましたが、具体的な場所はあるのでしょうか。

町長 まだまだ話は煮詰まっていないのですが、結局は洋ラン跡地が駄目なのであそこのような高台が無いので、10mくらいのところで検討できそうな場所が出てきました。

委員 小学校や中学校はどうなのでしょう。

町長 小学校や中学校はそこへ建てる面積がありません。グラウンドや体育館を建てるとなると膨大な敷地が必要になりますので、不可能に近いです。できれば既存のところで妥協していただいて、必要であれば避難道の整備などに重点的にお金をかけるなどで対応させてもらえれば。

1番困るのが宮ヶ原から宇久須までの距離、40km位の所を1カ所にとると、どうしても中間に物を持ってこなければ。宮ヶ原も来年1年生に上がる子がいますので、中学校までの9年間を宇久須まで通わせますかというのもきついという話もあるので、そうすると中間だどうしても西伊豆中としか、町としては提案出来ない。

確かに賀茂中の体育館が良いという話がありますが。そこを保護者の方がうまく理解してくれれば。議事録を見ておきますと、中学校の保護者はまだ賀茂中学校のほうがいいという方もおり、そこから下がってきますと人数が少ないのが目に見えておきますので、これを2つにすることや小学校を3つにするよりかは、どこでもいいので1校にしてくださいという方もおきますので、その兼ね合いが教育長と局長の腕の見せどころです。ただ締めを決めてあげなければ、学校の先生の配置については県の教員になりますので、今年度中に何年までに統合するかしないかだけは決めていただきたい。

そして皆さんの要望を聞きながら、既存の物を使うのであれば建てる費用も時間もいらないので、学校の机を持っていけばいいだけです。統合さえ決まれば教員の人数も向こうでやってくれますので、締めまでに場所と、何をすればという意見を聞いて、解決していければと思っています。今の中学校の2年生と3年生の保護者からしますと関係の無い話になってしまいますので、中学1年生の保護者以下の人たちがどういう風に思っているのか重点的に聞きたい。



なので、放課後児童クラブは是が非でも仁科に来てもらいたい。そうしますと小学校の時に全地区の子がみんな一緒に遊びますので、したら違和感がなくなりまして、統合しやすい雰囲気出来るのではないかという気もします。

**委員** 3校が何かを一緒にやるということは、今すぐにでも統合出来るわけでは無いので、何か交流などがあればいいかと。

どんなことでもテーマは良いので今すぐできることは何かないのでしょうか。

**町長** 残念ながらクラブ活動は人数が揃ってしまおうと出来ないようです。今年の3年生が2年生だったときは、賀茂中の女子バスケット部は人数が少なかったので西伊豆中へと行っていたのですが、3年になりまして1年生が入ってきまして、部員が揃いまして単独で出来るようになりましたので、一緒に出来なくなった経緯がありますので、やらせてあげたくても学校単位で出来るのなら、交わることは出来ず、また試合にも出ることが出来なくなります。

今でも水泳や行事で一緒にやっておりますが、会話をする機会があまりないので、本当でしたら一緒にやれる行事が増えてくれれば。

**委員** 人数が絶対的に少ないので、何かあればすぐに交流は生まれます。私の下の子も松崎のテニスクラブへ通っておりまして、そこにいったら松崎や西伊豆の子もいるのでそこから輪が広がりましたし、塾でも他の学校の子もいますので、中学へ上がるまでに他校の知り合いが出来ておりました。なので、ここにつながる交流の場を塾など以外にも学校間でコミュニケーションが取れないのでしょうか。

**教育長** 駄目ではないですね。実際にそのための予算も取っております。

**委員** そういう意味で空気が入れ替わるといいますか、閉鎖的になっている子も他の学校と交流すれば。本当は今すぐ統合できればベストですけども、今すぐというのは無理ですので、少しでも色々な触れ合う方法を。

問題が入れ替わっているところがありまして、場所が何処だとか海抜はいくつだなどが問題ではなく、子どもが問題なわけなので。

**教育長** 現状こうなってくるのは10年以上前から分かっていたことなので、その時から準備をしておけばよかったのですが、それが今になって複式学級になったところで、慌てて場所をどこにするというところが論点になっているのが難しいところですね。統合してどんな学校を作りたいかという理想があるはずですが。そのためにはどんな人たちを集めればいいのかというのものもあるはずなのですが、今ここまで来てしまうと幼稚園も小学校も中学校も待たなしという状況なので、どうしても場所をどこにするかが先行してしまいます。

**委員** それはそれで問題解決のために努力していかなければならないのですが、今出来ることとして、とにかく子どもたちを1カ所に集める機会が設けられるのならば、テーマは何でもいいので1つのことをみんなで作れば。

**町長** 事務局長のほうで学校全体は無理かもしれないですが、学年ごとで何かできませんか。5年生は富士見町との交流がありますのでいいかもしれません。

**委員** 今でも各学年でガラス工芸やジオ巡りなどあります。今聞いておまして、何か作りだすことは無いかと思いました。

**町長** ジオを連れていかれてではなく、ロゲイニングをやるのですが、各学校からランダムに混ぜたグループでロゲイニングをやらせてみたりなど。

**町当局** この前の町内留学が良かったのは、色々な学校の子がグループを組んでおりましたので、一泊二日でだいぶ仲良くなります。町長がおっしゃったような放課後児童クラブなど一緒に色々なことをやっていけば親しくなっていくかと思います。

**教育長** 裾野の自動車工場の見学なども3校一緒にやっております。

**町長** それはあくまでもバスで連れていかれてですよ。

**委員** 交流の行事は沢山あるのですが、何かコミュニケーションをしながらというのは足りていないかもしれません。

**委 員** 仁科の小中学校で夏休みに希望者を集めて一泊二日で活動や交流を  
していきまして、10月の赤十字の東部地区の時に富士市が今まで参加  
していたが、今年から参加しなくなりまして、なぜ参加しなくなった  
のかという話になった時に、富士市は市教育委員会で同じようなこと  
をやるようになったので、赤十字は重なってしまうので出ませんとい  
う話でした。

**町 長** では、今日のところの教育委員会の事務事業全般につきましては、こ  
れで終わりとさせていただければと思います。今日は色々な話が出ま  
して、意見もいただきましたので、町としては良かったかと思いき  
ますので、そのご意見を参考にしながら、教育委員会で考えて皆さんが思  
うような事業が出来ればと思っております。

また引き続き色々なご意見を考えていただいて、次回に聞いていた  
だければと思います。

以上で本日予定しておりました議事を終了いたします。では、事務  
局にお返しします。

**町当局** それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回西伊豆町総合教育  
会議を閉会といたします。本日は、ありがとうございました。

以上